座間市は1月から、大手飲料メーカーのコカ・コーラボトラーズジャパンと協働し、回収した使用済みペットボトルを再生利用する「水平リサイクル」事業を始めた。海老名市も同社と協定し、4月から事業を始める予定だ。

同様の取り組みは綾瀬市が昨年4月、市内に生産工場を持つサントリ

利用

適正な事業化で拡大を

せている。持続可能な資源循環型社会の実現に向け、取り組みを進める自治体がさらに増えていくことを期待したい。

現状では衣類やトレーへの再生がまだ多く、新たなボトルとしてリサイクルされるのは全体の2割程度にとどまる。自治体と協力が注目され

し、容器の製造業者や商品を販売する企業にリサイクルを義務付ている。これまでは日本容器包装リサイクル協会が自治体から引き取り、リ

加わる姿を楽しめた。

コロナが落ち着き、訪日客も戻りつつあるようで、会場は英語や中国語などが飛び交い、驚くほどにぎわっていた。ガンダム関連記事は、ウェブサイトでも反応がいいコンテンツの一つだ。国内外問わずファンが多いということだろう。

3月末公開終了のため駆け込みで訪れたのだが、直後に会期の1年再延長が発表された。人気恐るべしである。（編成部・鈴木　昌紹）

支援の現場から　ウクライナ侵攻1年

ロシアによるウクライナ侵攻から1年。戦争で虐げられるのは、いつも弱い立場の人々だ。ウクライナで暮らす障害者や子ども、日本への避難者の支援に取り組む人たちに現状を聞いた。

難民を助ける会　紺野 誠二さん

障害者に精神的なケア

認定NPO法人「難民を助ける会」（東京）はこれまで、ラオスやカンボジアなど世界各国で障害者の支援に取り組んできました。ロシアによるウクライナ侵攻を機に同国にある知的障害者の親の会と車いす利用者の団体を支援するようになり、昨年7月に現地を訪問しました。

侵攻によって障害者の大変さは増しているのではないかと思います。空襲警報が鳴っても視覚障害者は1人で地下シェルターに逃げられず、聴覚障害者は気付くこともままなりません。そして知的障害者はそもそも何が起きているのか分からない可能性があります。

さらに精神的なストレスや懸念されます。戦争が起きると、国からの社会福祉の支援は届きにくくなります。通所型の施設に通えなくなればストレスがたまり、家族関係が最悪の状態になってしまう恐れがあるのです。

こうした状況に陥らないように、首都キーウ（キエフ）にある知的障害者の親の会「ジェレラ」への支援では「レスパイト（休養）ケア」にかかる利用者の移動費や食費、レクリエーション費、スタッフの人件費を負担しています。

7、8人の知的障害者が家族の元を離れ、キーウから100キロほど先の施設で1週間から10日ほど過ごします。レクリエーション活動をしたり、バーベキューをしたり。親の会から送られてくる写真を見ると、みんなリラックスして過ごしていますね。

こうした心理的なケアは今後も継続する必要があります。ただ、本当に必要なのは一日も早く平和が戻ることです。（談）

こんの・せいじ　1972年生まれ、茨城県出身。難民を助ける会でプログラムコーディネーター（地雷問題担当）として活動。精神保健福祉士、社会福祉士。

グッドネーバーズ・ジャパン　河合 裕司さん

子どもの心のケア開始

戦争が起きると、まず子どもや女性、高齢者への支援に取り組むことが国際スタンダードです。認定NPO法人「グッドネーバーズ・ジャパン」（東京）はウクライナの隣国ルーマニアに拠点を置き、難民の子どもへの支援や、ウクライナへの食料、物資配布など多面的な活動をしています。

住居や医療などは、欧州連合（EU）やルーマニア政府によって手厚いサポートが受けられます。ただ、心のケアは十分とはいえず、今年2月から小中学生を対象にした事業を始めました。

子どもの中には家族が戦争に巻き込まれたり、村が破壊されたりの各目撃したりして、心に一生忘れられない傷を負っているケースがあります。お絵描きや粘土の工作、演劇など自分の気持ちを表現するプロセスを通じ、自身のトラウマとも向き合えるようになってもらうのが目的です。

また、ルーマニアの提携団体が、ウクライナ側の依頼でルーマニアで孤児を受け入れ、子どもたちをケアしています。施設は七つあり、379人（1月末現在）が暮らしています。

ウクライナ政府などは、ロシアが児童保護を名目にウクライナの子どもを連れ去っていると非難しています。孤児の受け入れは子どもをかくまうためでもあるのです。

子ども1人の食費は1日3万円（約430円）。クラウドファンディングで寄付を募り、スタッフの人件費を含め、1カ月分の経費600万円を送りたいと考えています。

ウクライナ侵攻から1年。いつ緊急支援のフェーズが終わるか分かりませんが、復興が実現するまで中長期的にコミットしていく予定です。（談）

かわい・ゆうじ　1984年生まれ、千葉県出身。国際移住機関を経て、2021年からグッドネーバーズ・ジャパン。現在、第2海外事業部長。

避難民が店スタッフに

「スマチノーゴ」オーナー　TAKANEさん

東京・新橋に昨年9月、ウクライナ料理の店「スマチノーゴ」をオープンさせました。店名はウクライナの言葉で「おいしく召し上がれ」という意味です。ロシアによる侵攻で日本に避難してきたウクライナ人の男女計7人にスタッフとして働いてもらっています。

日本政府が避難民の受け入れを決めた時、何かやってあげられることはないかと考えました。住宅・物資の支援などが案として浮かびましたが、店を開くことにしたのは、仕事を提供することによって経済的な安定と精神的なケアが両立できると期待したからです。

日本語が話せないため、避難民の仕事は梱包作業など、人と会話せずにできるものが多いそうです。ただ、そうした孤独な作業は気持ちがふさいでしまう。一方、日本人が食事に来て避難民のスタッフとじかに接すれば、さらなる支援につながるかもしれませんし、スタッフもやりがいを感じることができます。

「ここに来れば、支え合う仲間がいる」「憂鬱な気持ちが紛れる」。こんなふうに、みんな喜んでくれています。

ただ、スタッフはそれぞれが悩みを抱えています。例えば、一緒に避難した子どもがウクライナに帰れると思って日本語を学ぼうとせず、友達もつくろうとしないという話を聞きました。

母親として子どもが安全に暮らせる環境にいることに満足しつつも、戦争終結の見通しが立たず、子どもの気持ちにどのように対応していいか分からないようです。

少しでも安らぎを感じてもらうため、今年は花見や浴衣パーティーをしたいと考えています。いつか母国に帰った時、「避難は大変だったけど、いいこともたくさんあったな」と思い出してもらえればいいですね。（談）

タカネ　神奈川県出生まれ。スマチノーゴのオーナー。俳優兼デザイナー。

文庫化のお知らせ

県立知的障害者施設「津久井やまゆり園」の入所者19人が殺害された事件を巡り、神奈川新聞社のこれまでの取材をまとめたドキュメント「やまゆり園事件」の文庫版が、幻冬舎から出版されました。

発生から死刑判決確定まで、事件を詳報。さらに障害者差別の実態や根強い優生思想など、事件が社会に突き付けた課題に本紙記者が向き合っています。913円。全国の書店で発売中。

情報

産学ネ

町田デザイン&建
学校（町田市森野、井
理事長）の第27回卒
トワーク展が17日か
の3日間、同校のキ
に開催されました。
毎年恒例の井上理
による「揮毫」でオープ

プレゼント

「老人ホ
プレゼ

クリエ（東京都
する老人ホーム検索
「みんなの介護」は、
設数が5万件を超え
連続業界ナンバーワ
録しました。
同サイトはコミュ
が充実しており、人気
ホームが簡単に見つ
す。
同社では、老人ホー
用や入居条件、見学
クポイントなどを
かりやすく解説した
子「老人ホームの選
方入門ガイド」も発
しており、今なら希
者全員に無料プレゼ
トしています。老人ホ

神奈川新聞